

先進安全装置を標準搭載し安全性能を強化 新型電気小型トラック「e Canter」を発表

三菱ふそうトラック・バス株式会社(MFTBC)は、安全装備を強化した電気小型トラック「eCanter」を発表した。このモデルは日本国内で2020年8月よりリリース販売を開始し、今後は欧州及びアジア太平洋地域でも随時販売を開始する。

三菱ふそうの量産型電気小型トラック「eCanter」は新たに先進安全装置を標準搭載し、安全性能の強化を実現。新規搭載された衝突被害軽減ブレーキ「Advanced Emergency Braking System: AEB」は、フロントバンパーに搭載した高精度ミリ波レーダーが前方の走行車両をはじめ、静止車両や動いている歩行者を検知し、衝突の危険を察知するとドライバーに警報を発し、ブレーキを自動で作動させ衝突回避をサポートする。また、車両安定性制御装置「Electronic Stability Program: ESP」が車両姿勢をセンサーで常時検知し、カーブでの横転等の危険性が生じた場合、モーター駆動や4輪のブレーキ力を制御し、車両姿勢を適正な状態にすることで横転の危険回避を支援する。さらに、車線逸脱警報装置「Lane Departure Warning System: LDWS」はウィンカー操作を行わずに車両が車線を逸脱した場合、白線認識カ

メラが車線逸脱を検知し、ドライバーにブザーで注意を喚起し、ドライバーの安全運転をサポートする。

電動で駆動することで排出ガスを一切出さない「e Canter」は、世界的にますます高まるゼロ・エミッションの輸送ニーズに対して、三菱ふそうが提供するソリューションである。「e Canter」は従来のディーゼル車と比較して騒音がなく、振動も少ないため、市街地での深夜・早朝稼働の配送ニーズにも対応し、特に都市内輸送に適している。さらに、夜間に充電することで、作業時間の効率化やドライバーの負担軽減にもつなげられる。2017年に日本をはじめグローバルで販売を開始して以来、これまでにルート配送や店舗への商品配送等の配送用トラックとして活用されており、環境に配慮したトラックとして国内外のユーザーから高く評価されている。

三菱ふそうトラック・バスのハートムット・シック代表取締役社長は、「環境に配慮した物流ニーズは、世界規模で現在急速に高まっています。三菱ふそうはEVトラックのパイオニアとしてゼロ・エミッション輸送の実現に貢献し、e Canterは国内外の様々なお客様のもとで稼働中です。より新しく進化を



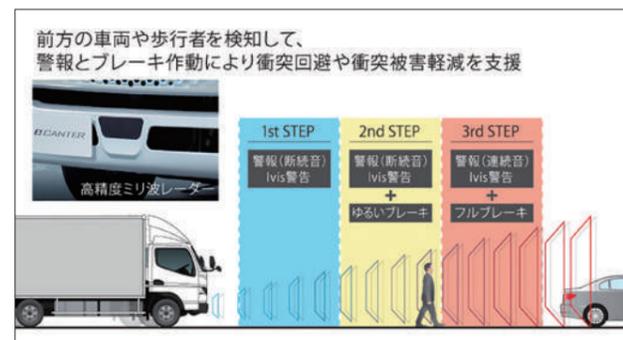
遂げた e Canter は、環境に配慮した輸送実現に向けた私たちの取り組みの証です。三菱ふそうはさらに、2039年までに全ての新型車両をCO₂ニュートラル化するビジョンの実現に向けた取り組みも今後加速していきます」と述べている。

電気小型トラック「e Canter」は、今日の都市が抱える騒音や排出ガス、CO₂低減の課題を解決する答えとして、三菱ふそうが開発した車両で、これまでに世界全体で160台以上が稼働中で、合計200万km以上の走行実績により、環境に優しく経済性に優れていることが証明されている。「e Canter」は、車両総重量7.5トンクラス、急速充電では最大約1.5時間、普通充電では最大約11時間の充電で、航続距離は約100kmを確保。電気駆動システムには、モーター（最大出力135kW、最大トルク390Nm）と、370V・13.5kWhの高電圧リチウムイオンバッテリーパックを6個搭載している。

■先進安全装置（標準搭載）

・衝突被害軽減ブレーキ (Advanced Emergency Braking System: AEB)

フロントバンパーに搭載したミリ波レーダーにより、前方の走行車両または停止車両、さらに移動中の歩行者を検知し、衝突の危険を察知するとドライバーに警報を発し、衝突の危険が高まるとブレーキを自動的に作動し、衝突回避や衝突時



衝突被害軽減ブレーキ

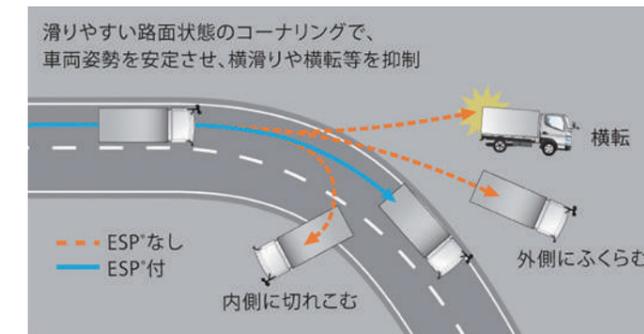
の被害軽減をサポート。

・車両安定性制御装置 (Electronic Stability Program: ESP)

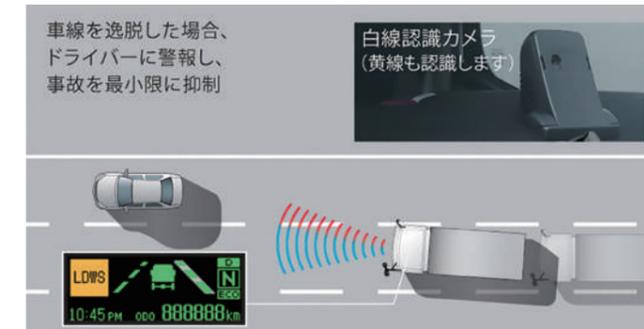
車両姿勢を常にセンサーで感知し、カーブでの横滑り、横転等の危険性が生じた場合、モーター駆動や4輪のブレーキ力を最適に制御し、危険回避をサポート。

・車線逸脱警報装置 (Lane Departure Warning System: LDWS)

高速道路などでウィンカー操作を行わず、車両が車線を逸脱した場合、白線認識カメラが逸脱を検知し、ドライバーにブザーとメータークラスター内 Ivis (マルチ情報システム) の表示により安全走行を促す。



車両安定性制御装置



車線逸脱警報装置



eCanter 新型モデル (撮影用特別仕様車)

130t吊りオールテレーンクレーン「AC 130-5」発売 ブーム付きで登録可能な最大モデル

（株）タダノは、130t吊り（最大吊上げ荷重 91.7t）オールテレーンクレーン「AC 130-5」を2020年8月25日に発売した。

タダノは2019年7月31日、100年以上の長い歴史を有し、大型のオールテレーンクレーンやクロークレーンで世界有数のブランドとして定評があるDemag クレーン事業を買収した。このたび海外市場に続き、日本市場においてもTadano Demag ブランドのオールテレーンクレーンの販売を開始した。

オールテレーンクレーン「AC 130-5」は、ユーザーからの要望が多い搬送性の良さや高いクレーン能力を備え、作業の効率化と快適性、高い安全性を確保している。

なお、標準仕様での価格は、2億円（税別）／「油圧チルトジブ」「ミドルジブ」を含むで、販売見込台数は年間10台としている。

■「AC 130-5」の主な特長

① ブーム付きで登録可能な最大モデル

130t吊り性能クラスでありながら、ブーム付きで公道走行可能な5軸オールテレーンクレーン。これによりブームの着脱作業や、分解搬送、現場での組立時間を削減し、コストの圧縮と作業の効率化を実現。さらに、キャリヤ幅は2.87mとコンパクトで、狭所への侵入性にも優れている。

② クラス最長級のブームと油圧チルトジブ仕様

高剛性・高強度を誇るクラス最長級の6段59.8mブームを搭載。さらにブーム先端に12mのミドルジブと、最長21mの油圧チルト式ジブを加えた33mジブを装着することにより、高揚程における高い吊り上げ能力を実現。

なお、ミドルジブはブームと油圧チルトジブを繋ぐジブで、油圧チルトジブは油圧シリンダにより無段階にオフセット角度を変えられるタイプのジブ。

③ 「IC-1 プラス」がクレーン作業を安全にサポート

過負荷防止装置IC-1を搭載。クレーン作業においては、少ない操作で直感的にセットアップができるカラーディスプレイを採用。繊細でスムーズな操作を実現する。

加えてIC-1に標準搭載されている「IC-1 プラス」機能により、アウトリガの異張出制御やカウンタウエイトを自動検出し、常に最大限のパフォーマンスを提供。作業現場でのクレーンの運用を柔軟で安全にサポートする。

④ スマートなクレーンセットアップ

アウトリガの設置の際には2つのボタン操作のみで水平を自動調整し、作業準備をサポートする。また、作業準備や格納作業が行える作業準備用ラジコンを標準装備。周囲の状況を確認しながら安全で効率的に作業準備時間の短縮が可能。

⑤ シングルエンジン方式を採用

スカニア社製エンジンを搭載。キャリヤとクレーンの動力を兼ねたシングルエンジン方式によって軽量化の実現と、メンテナンス時間や故障リスクを低減する。

主要諸元		AC 130-5
クレーン諸元		AC 130-5
最大吊上げ能力		130t吊り性能クラス 最大吊上げ荷重：91.7t
最大作業半径	ブーム (HA)	56.0m
	ジブ (HAVHY-VA)	62.0m
ブーム長さ (HA)		12.5m～59.8m
ジブ長さ	(HAVHY)	11.4m/21.0m
	(HAVHY-VA)	33.0m
ブーム (HA)、油圧チルトジブ (HAVHY)、油圧チルトジブ+ミドルジブ (HAVHY-VA)		
キャリヤ諸元		AC 130-5
エンジン		スカニア DC13 ディーゼルエンジン
最高出力		405kW/2,100min ⁻¹ (550HP)
最大トルク		2,476Nm/1,400min ⁻¹
最高速度		85km/h
最小回転半径		10.56m
全長		14,450mm
全幅		2,870mm
全高		3,980mm

積載性に優れたピクシストラックに 後退時の誤発進を抑制する機能を追加

TOYOTAは、ピクシストラックを一部改良し、全国のトヨタ車両販売店を通じて、2020年9月1日に発売した。

今回の一部改良では、誤発進抑制制御機能を後退時にも作動するようにしたほか、バックソナーを一部グレードに新設定した。価格帯は、693,000円～1,314,500円（消費税込）となっている。

■ピクシストラックの特長

・安全性能（スマートアシストⅢt）

万一事故が起きてしまうと、仕事に支障をきたすだけでなく、会社や店などの信用にも影響を及ぼすことになる。搭載

されたスマートアシストⅢtは、先進の安全技術で商用車に必要な安全・安心をサポート。毎日クルマを使う人に一層の安心を提供する。

・積載性能

クラストップを誇る使い勝手の良いガードフレーム荷台は、荷台への張り出しがないのでムダなスペースを作らず、下から上までさまざまな荷物をきれいに重ねて積み込める。荷台の幅、高さにも余裕を持たせて、積載性を高めた。

・燃費・走行性能

搭載エンジンの最高出力（ネット）は、MT車で34kW



オールテレーンクレーン「AC 130-5」



安全機能を追加した積載性に優れた「ピクシストラック」



ピクシス - スタンダード「農用スペシャル SAⅢ」(4WD)

【46PS】／5,700r.p.m.、AT 車で 39kW 【53PS】／7,200r.p.m.、最大トルク(ネット)は 60N・m【6.1kgf・m】／4,000r.p.m.。エコロジーでありながら、満載時や坂道でも力強い加速を実現。また、最小回転半径は 3.6m と軽トラ No.1 の小回り性となっている。

・スペース・乗降性

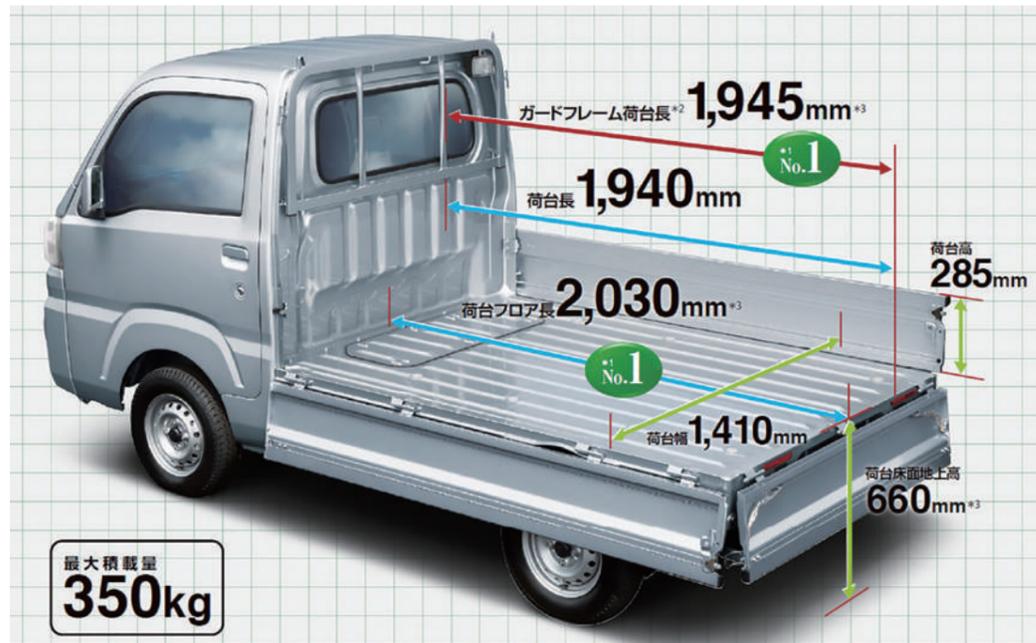
大型インパネアッパーポケット(助手席)や A4 ファイルが収納可能な大型グローブボックスなど豊富な収納スペースを採用。プロが使う道具もすっきり片づく。また、床が低く、小柄なドライバーでもヒザや腰への負担が少なく、長身なドライバーも体を大きくかがまず乗り降りが可能。足を通しやすい広い足元や、大きな角度まで開くドアも採用した。

・防錆性能

高い防錆性能に裏付けられた、長期サビ保証を全車に採用。ボディ表面は荷台を含み 3 年、ボディ外板穴あきサビは荷台を含み 5 年の保証となっている。



ピクシストラックに新設定されたバックソナーのスマートアシストIII t



軽トラック最大クラスの積載効率を誇るピクシストラック



ごみ収集車安全支援システム
KIES
Kyokuto Intelligent Eye System

ごみ収集車への巻き込まれリスクを軽減する AI 搭載の画像認識安全支援システム「KIES」

■画像認識安全支援システム「KIES」の作動の仕組み



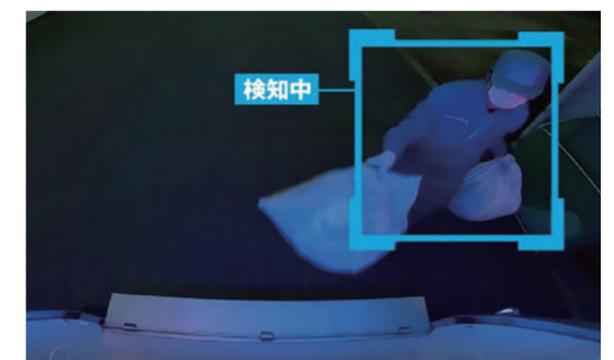
また、「人」全体を把握して検知を行うことから、特別な専用装備を必要とせず作業者はもちろん、作業員以外の人物の検知を行うことができる。さらに、「KIES」作動履歴の保存や、同社のIoT基盤を利用した車両管理支援システムである「K-DaSS(ケーダス:Kyokuto Data Sharing Service)」との連携も可能としており、さらなる安全管理の徹底を実現する。極東開発グループは、収集時の作業性を損ねることなく、

より高度な安全性を確保することができる全く新しい安全支援システム「KIES」の技術を今後広く応用し、特装車の安全性向上への取り組みに注力していくとしている。

「KIES」の希望小売価格は 38 万円(消費税抜き)で、装着にはシステム本体のほか別途専用バックアイカメラが必要となる。また、「KIES」は極東開発のごみ収集車専用のメーカーオプションで、既存車両への装着はできない。



収集物判別イメージ



早朝・夕方作業イメージ

話題のニュートラック新製品情報・新情報

安全装置…極東開発

ごみ収集車への巻き込まれリスクを軽減する AI搭載の画像認識安全支援システム「KIES」発売

極東開発工業(株)は、ごみ収集車への巻き込まれリスクを軽減する安全支援システム「KIES(キース:Kyokuto Intelligent Eye System)」を同社ごみ収集車の専用オプションとして 2020 年 8 月 31 日に発売した。

ごみ収集車による収集作業には積込装置に人が巻き込まれるリスクが伴い、重傷・死亡事故につながることもあり、その安全対策は重要な課題となっていた。「KIES」は、作業現

場のカメラ映像から危険状態を判定することでこれらの問題を解決した安全支援システムである。高性能専用カメラ(バックアイカメラ兼用)と独自の AI 画像認識技術により「人」を高精度で検知することで収集時の危険を察知し、積込装置を自動停止する。

また、周囲の環境や状況および明るさによる影響が少ないため、場所や収集物、時間を問わず検知を可能としている。

■ごみ収集車安全支援システム「KIES」の特長

(1) 高性能専用カメラと独自の AI 画像認識技術でエリア内の「人」を検知

「KIES」は、高性能専用カメラ(バックアイカメラ兼用)と独自の AI 画像認識技術により、検知エリア内の「人」を把握して検知。そこで検知された「人」の手や頭などの身体の一部が危険エリアに進入することにより危険を察知し、積込装置を自動停止するシステムである。これにより、万一の巻き込まれ事故リスクを低減する。

(2) 高精度な検知で、高い安全性と作業性を確保

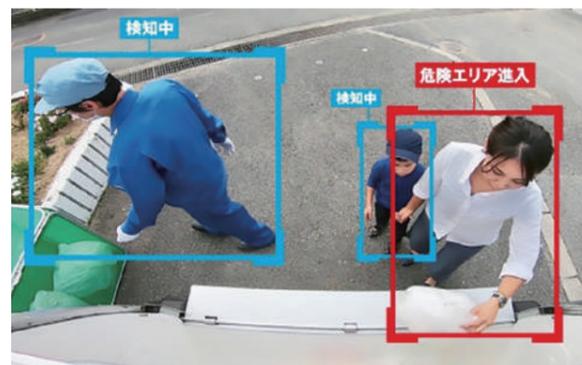
周囲の環境(作業を行う場所・路面標示・写り込み等)や状況(収集物の種類・色・形状等)、明るさ(薄暗い早朝・



手が隠れた状態での検知イメージ



雨具装着作業イメージ



作業員以外の人物検知イメージ

夕方などの時間等)を問わず検知が可能。また「人」全体を把握して検知を行うことから、収集物で手や腕が隠れていても検知できる。

検知には特別な専用装備の必要がなく、雨具・帽子・フード・手袋・アクセサリなどの装着品や、髪型・身長・体形等による影響も受けにくい。誤検知による不必要な作動停止の抑制も実現させている。

これにより、作業員、作業員以外の人物も検知することができるほか、作業性を損ねることなく「高い安全性」を備えたごみ収集車を「今まで通り」利用することが可能となっている。

(3) さらに安全管理を実現する履歴保存機能と「K-DaSSR」とのシステム連携

「KIES」が危険を察知し作動した日時と画像(および出入り情報)の履歴を保存することができるほか、同社の IoT 基盤を利用した車両管理支援システム「K-DaSS」のごみ収集車ユーザ向けアプリや Web と連携させることで、「KIES」が作動した日時と位置情報を車両管理者に通知することで、安全管理のさらなる徹底を可能にする。

なお、K-DaSS の利用には、事前の申込みと ID 登録および専用アプリのインストールが必要となる。



KIES 作動時の記録画像イメージ



KIES と K-DaSS の連携イメージ

話題のニュートラック新製品情報・新情報

ナビアプリ…日野自動車・KDDI

トラック専用ナビと通信料などをセットにした「スペシャルナビパック」の提供を開始

日野自動車(株)と KDDI (株)(本社:東京都千代田区、高橋誠社長)は、トラックユーザーの安心・安全な運行に貢献するため、トラック専用のナビゲーションシステムを搭載したスマートフォンの端末代金・通信料をセットにした「スペシャルナビパック」を日野の各販売会社を通じて 2020 年 9 月 16 日から順次提供を開始している。

トラックやバスなどの大型車が関連する事故は一般的に被害が大きくなる傾向があり、ドライバーの安全運転を支援し交通事故を防止・低減することが社会的な課題となっている。特に大型トラックは通行可能な道路に制限があり、誤った経路選択が事故に直結する可能性がある。

このような課題の解決と交通事故死傷者ゼロ社会の実現のため、日野と KDDI は、トヨタ自動車(株)の協力のもと、スマートフォンの端末代金と通信料金、トラック専用カーナビアプリ

「トラックカーナビ」の利用料をセットにした求めやすい料金で利用できるパッケージとして商品化している。

スペシャルナビパックでは、(株)ナビタイムジャパン(本社:東京都港区、大西啓介社長)の「トラックカーナビ」をスマートフォンにプリインストールして提供。「トラックカーナビ」は、登録した車高・車幅・重量などの車両情報に基づき大型車が通行可能なルート案内するほか、ルート設定をせずとも通行不可能な地点に接近すると注意喚起するなどの機能を備えている。カーナビを搭載していないトラックでも、初めて通る道を安心して走行することができる。

なお、スペシャルナビパックは、日野車に限らずどのメーカーの車両でも使えるため、幅広いトラックユーザーの安心・安全な運行をサポートできる。

日野と KDDI はトヨタとともに、自動車の安心・安全な走



日野と KDDI が提供する「スペシャルナビパック」のイメージ

行環境の実現に向け、今後も継続してトラックやバスなどの大型車およびドライバーの交通事故防止・安全走行の支援に取り組んでいくとしている。

■スペシャルナビパックのサービス概要

「トラックカーナビ」をプリインストールしたスマートフォンの端末代金と通信料金、「トラックカーナビ」の利用料をセットで利用できる。

「トラックカーナビ」は、ナビタイムジャパンの提供するトラック専用カーナビアプリで、登録した車両情報に応じて、車高・

車幅・重量・トラック通行止を考慮した最適なルートを案内。複数の配送先にまわる際の最適な順番を提案する巡回経路検索や、トラックが止められる施設の検索、航空写真表示や見やすい交通情報など、トラックドライバーに便利な機能も満載されている。

「トラックカーナビ」には、①トラック専用ルート案内、②規制情報の地図表示、③巡回経路検索、④渋滞情報確認機能、⑤ My ルートプラン、⑥トラックの駐車可能なスポット検索、⑦航空写真表示、の機能が搭載されている。

山工場から小型バス「ローザ」を、そして DICV のオラガダム工場から中型トラック「FA」や「FI」、さらには大型トラック「FJ」や「FZ」を輸出している。2019 年のふそうの同市場でのシェアは 53% を超えており、現地販売は 1983 年以来、ふそうブランド車両の総合販売代理店である AI Habtoor Motors (本社：アラブ首長国連邦) が統括している。

■「BA」の車両仕様

- ・モデル：BA
- ・車両総重量：9.6 トン

- ・エンジン(出力)：4D37 (125kW / 170hp@2500 rpm)
- ・トランスミッション：MO36 (前進 6 段、後進 1 段)
- ・定員：37 名(乗客 36 名+運転手)
- ・全長・全幅・全高：約 9,080mm×2,350mm×3,137mm
- ・サスペンション：リーフ式サスペンション(フロントおよびリアにショックアブソーバー搭載)
- ・ブレーキ：空気圧式ドラムブレーキ(アンチロックブレーキシステム搭載)



安全な通学を実現する「BA」のスクールバス仕様

話題のニュートラック新製品情報・新情報

輸出バス…三菱ふそう

オラガダム工場で製造する輸出仕様バス UAE 市場向けに 100 台をすでに生産

三菱ふそうトラック・バス(株)(MFTBC)は、インドのオラガダム工場(チェンナイ)で輸出仕様バス「BA」の生産を本格的に開始したと発表した。

ふそうブランド初の輸出仕様バス「BA」は、ダイムラー・トラック・アジアの協業の新たな段階を示すもので、ダイムラーグループ傘下の MFTBC、ダイムラー・インド・コマーシャル・ビークルズ社(DICV)、エボバス社の3社が共同で開発に関わっている。この製品の開発は、定員 30 名以上の大型バスに対す

る UAE 市場の需要に応えるため発足したもので、販売戦略は MFTBC とエボバス、設計・製造は DICV が担当し商品化したもの。2019 年 12 月より試験販売を開始し、2020 年夏より本格的に発売を開始している。また、これまでに UAE 市場向けにすでに 100 台を製造している。「BA」の生産台数は 2023 年末までに累計 800 台を超すものと見込んでいる。

「BA」は、DICV のインド国内向け商用車ブランド「バラート・ベンツ」の大型バスをベース車両とし、従業員の送迎を運行する法人の需要を満たすモデルとなっている。急速に発展するインフラ建設や製造業を背景に、既存モデルを設計に活用したことで、ユーザーニーズに迅速に応えることを可能としている。

「BA」は、欧州排出ガス規制「ユーロ 5」に準拠する 3.9 リットル 4 気筒エンジン「4D37」を搭載。また、全座席に難燃材料と 3 点式シートベルトを採用するなど、安全性を確保している。さらに、ルーフハッチにより緊急時の換気や避難を可能とし、より安全な通勤・通学を実現する。夏の酷暑に対応し、大容量のエアコンを標準搭載している。

UAE は MFTBC にとって中東・北アフリカ地域における最大市場であり、従来からふそうブランドの強力な足場となっている。今回の「BA」に加え、現在 MFTBC 川崎工場から小型トラック「キャンター」や中型トラック「ファイター」、三菱ふそうバス製造(株)の富



インドのオラガダム工場で生産される輸出仕様バス「BA」

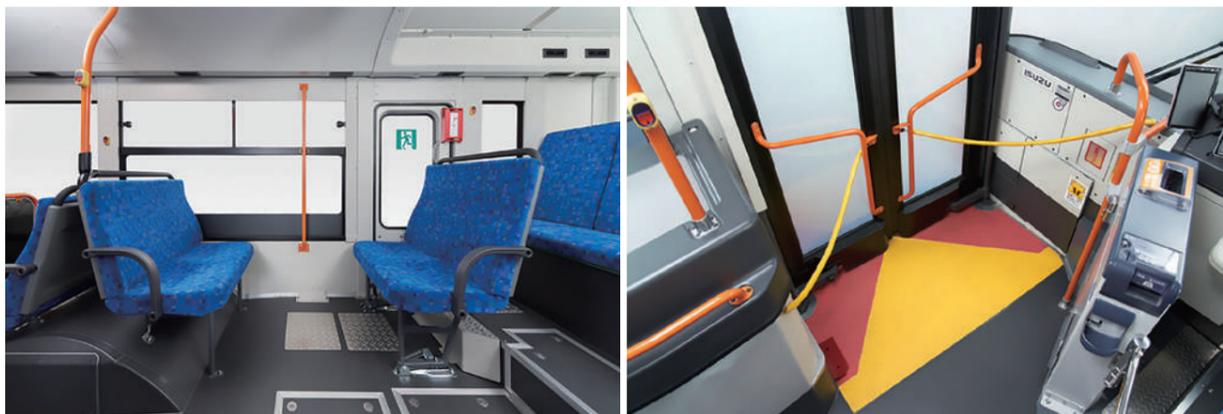
話題のニュートラック新製品情報・新情報

連節バス…いすゞ自動車

国産初の大型路線ハイブリッド連節バス「エルガデュオ」が東京 BRT に採用



国産初の大型路線ハイブリッド連節バスとして登場した「エルガデュオ」



乗客目線で設計された「エルガデュオ」の室内

いすゞ自動車(株)の大型路線ハイブリッド連節バス(2019年5月に日野自動車と共同開発)、いすゞ「エルガデュオ」が2020年10月1日にプレ運行を開始する東京BRTに採用されることになった。

いすゞ「エルガデュオ」は、日本の道路事情に適した車両寸法と操作性に加え、定員119名という大量輸送能力を実現。また、先進安全装備として、路線バスでは世界初となる「ドライバー異常時対応システム(EDSS: Emergency Driving Stop System)」を搭載している。

いすゞは、大量輸送能力と先進安全機能を備えた大型路線ハイブリッド連節バス「エルガデュオ」により、東京臨海エリアの新しい公共交通機関東京BRTを通じ、地域社会の発展に貢献して行くことになる。

なお、BRT (Bus Rapid Transit:バス高速輸送システム)

は、連節バスの採用、走行空間の整備等により、路面電車と比較して遜色のない輸送力と機能を有し、定時性・速達性を確保した、バスをベースとした交通システムのことで、東京の臨海地域における交通需要の増加に速やかに対応し、地域の発展を支える新しい公共交通機関として、都心と臨海地域とを結ぶBRTの運行が計画されている。



東京BRTに採用された「エルガデュオ」



Hondaが提案する都市型通勤車として登場した新型電気自動車「Honda e」

を選択したり、左右のアプリを入れかえたりなど自在な操作性を実現。また、スマートフォンとの接続によって音楽アプリやエンターテインメントアプリを表示するなど、これまでのクルマでは体験したことのない、楽しみながら新たな使い勝手を創造できるディスプレイとした。

クラウドAIによる音声認識と情報提供をおこなう「Honda パーソナルアシスタント」を搭載。「OK, Honda」と呼びかけることで、音声認識により最新かつリアルタイムの情報をオンデマンドに提供する。また、語りかけに対しキャラクターが7つの表情で反応したりするなど、よりクルマへの愛着を感じることを目指している。さらにHonda車専用車載通信モジュール「Honda CONNECT」も搭載し、コネクテッドサービス「Honda Total Care プレミアム(ホンダ トータルケア プレミアム)」で安心なカーライフを実現。

専用アプリをダウンロードすることでスマートフォンをデジタルキーとして使用できるとともに、国産車で初めてパワーオンま

で行うことを可能とした。

乗り降りにおいてもシームレスさを追求するため、Honda スマートキーを持って近づくと自動でフラッシュアウターハンドルがポップアップし、ドアハンドルに触れるだけでドアロックが解除される。また、クルマへ乗り込みドアを開けると、乗車したことを検知し自動でパワーがオンとなり、運転者はシートベルト着用後にDレンジボタンを押し、アクセルを踏むだけで走行が可能となる。降りる際も、降りてドアを閉めると自動的にパワーオフとなる等、限りなくシームレスな乗り降りを可能としている。

昼夜天候を問わず安心な視界を確保できるよう、サイド/センターカメラミラーシステムを搭載。世界初の量産車標準装備となるサイドカメラミラーシステムは、170万画素の高精細カメラを採用。また、カメラで捉えた映像はインストルメントパネル左右に配置した6インチモニターに映し出され、従来のドアミラーと比べても違和感が少なく運転が可能な見やすい映像を表示する。雨天時でも雨が付着したサイドウインドウを通

話題のニュートラック新製品情報・新情報

新型EV... Honda

新時代のクルマの魅力を徹底追求した 新型電気自動車「Honda e」を発売

Hondaは、新型電気自動車(EV)「Honda e (ホンダイー)」を2020年10月30日に発売する。

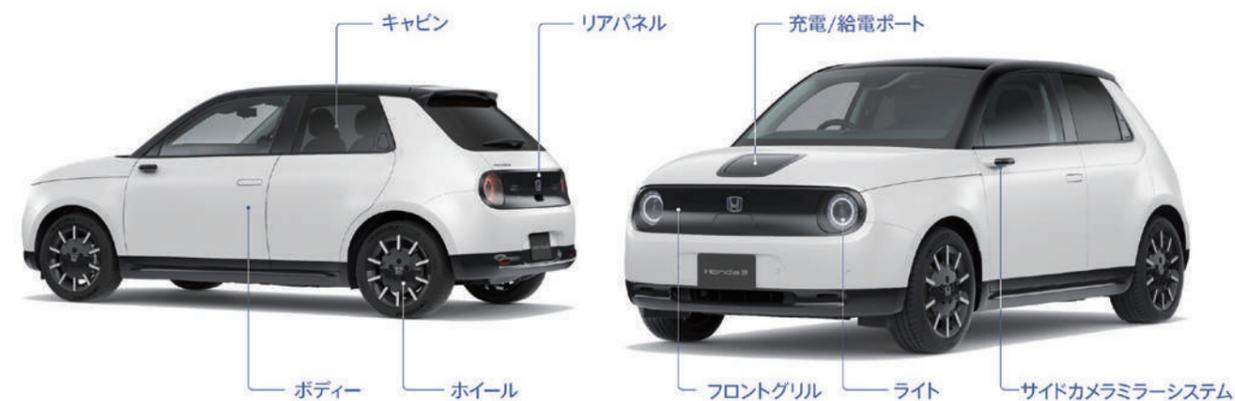
Hondaが提案する都市型通勤車 Honda e は、これまでのクルマにはない魅力を追求すると共に、EVの本質を見つめ、柔軟な発想で、未来を見据えてつくりあげたモビリティである。新しい時代になじむシンプルでモダンなデザインと、力強くクリーンな走りや取り回しの良さ、そして多彩な先進機能を搭載した Honda e は、ユーザーの移動と暮らしをシームレスに繋げる生活のパートナーとなることを目指して開発されている。

なお、全国メーカー希望小売価格(消費税10%込)は、「Honda e」4人乗りRR駆動で4,510,000円、「Honda e Advance」4人乗りRR駆動で4,950,000円。販売計画は年間1,000台としている。

■ Honda e の4つの魅力

【1】先進のテクノロジー

世界初となる5つのスクリーンを水平配置するワイドビジョンインストルメントパネルを採用。中央には、12.3インチのスクリーンを2画面並べた「ワイドスクリーン Honda CONNECT ディスプレー」を配置。運転席や助手席でそれぞれ表示機能



新型電気自動車「Honda e」は新しい時代になじむシンプルでモダンなデザインが採用されている(各部分の説明)



5つのスクリーンを水平配置する世界初のワイドビジョンインストルメントパネルが採用されている

さず、モニターで鮮明な映像を確認することができ、安全運転に貢献する。

【2】モダンで親しみやすいシンプルデザイン

エクステリアデザインは、円を基調としたキャラクターとし、新しい時代になじむシンプルでモダンなデザインとなっている。また、見せる要素と隠す要素を明確化することで、よりアイコン的な要素であるフロントグリルなどを際立たせ、さらに毎日使う充電／給電ポートを中央に配置。リッドは触り心地がよく美しい全面ガラスとし、毎日触れる場所だからこそシンプルで美しいデザインとした。

インテリアデザインは、移動している時はもちろん、止まっている時の心地よさも重視し、先進装備を搭載しつつ、シンプルで心安がりリビングのような空間となっている。パネルには、リビングテーブルのようなぬくもりを感じる自然な風合いのウッド調パネルを採用。スイッチ類を極限まで減らすことでシンプルなデザインと人にやさしい操作性を実現した。また、シートとドアの表面のメランジ調のファブリック、ブラウンのシートベルトやダウンライト式のLED ルームライトにより、上質でモダンなリビング空間を演出している。

【3】快適かつクリーンな都市型コムーター

リアに大トルクモーターを配置することによる力強い加速と、高いボディ剛性、路面の凹凸を吸収する四輪独立懸架サスペンションの採用により、上質な乗り心地ときびきびとした安定感のある走りを実現。また、最小回転半径は4.3mと約6mの片側1車線の道路でもUターンできる小回り性能を実現し、都市での扱いやすさも追求した。さらに、NORMALとSPORTの2つの走行モードやシングルペダルコントロールなど、ドライバーの好みやシーンに合わせた走りの設定を可能とした。

コンパクトなボディでありながらも、ゆとりあるドライビングポジションを確保。また、シートは、アコードのフレームを使用することにより、広々とした座り心地を実現。大人4人が快適に過ごせる空間とした。

街なかの狭い駐車スペースでも安心して駐車できるよう、駐車支援システム「Honda パーキングパイロット」をHonda車で初搭載。6つのパターンの駐車／出庫モードに対応し、駐車したい場所を選定しボタンを押すだけで、4個のマルチビューカメラと12個のソナーで駐車枠や空間をクルマが認識し、アクセル、ブレーキ、ハンドルやシフト操作を行う。

建物／家屋に給電するV2H(Vehicle to Home)や、機器などの電源となるV2L(Vehicle to Load)に対応。日常利用だけでなく停電など万が一の際の安心につなげている。

【4】先進の安全・安心

コンパクトEVのパッケージと優れた全方位衝突安全性を実現するボディー骨格技術を採用。また、先進の安全運転支援システムHonda SENSINGを標準装備している。

〈Honda SENSING 機能一覧〉(サボカー S(ワイド)に該当)

- 1) 衝突軽減ブレーキ(CMBS)／ 2) 誤発進抑制機能／
- 3) 後方誤発進抑制機能／ 4) 近距離衝突軽減ブレーキ／
- 5) 歩行者事故低減ステアリング／ 6) 路外逸脱抑制機能／
- 7) 渋滞追従機能付アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)／ 8) 車線維持支援システム(LKAS)／ 9) 先行車発進お知らせ機能／ 10) 標識認識機能／ 11) オートハイビーム



コンパクトな車体でもゆとりのトランクルームがある

世界で人気のピックアップトラック 新型「D-MAX」の輸出を開始



世界各国への輸出が開始されたいすゞの新型「D-MAX」



いすゞ自動車(株)は、2019年10月に8年振りにフルモデルチェンジした小型ピックアップ・トラックの新型「D-MAX」を、2020年9月の豪州での発売を皮切りに世界各国への輸出を開始した。

いすゞは、70%を出資する子会社「いすゞ・モーターズ・インターナショナル・オペレーションズ・タイランド(IMIT)」を通して世界約100ヶ国以上に「D-MAX」輸出し、累計で210万台を販売している。今後、新型「D-MAX」を豪州に引き続き欧州等へも順次輸出していくことになる。

「D-MAX」はこれまでにタイ国内において、2019年度モーストポピュラーピックアップ・トラック賞、最優秀省燃費ピックアップ・トラック賞、ベストライフピックアップ・トラック賞を受賞するなど、トップブランドとしての地位を確立している。

いすゞは中期経営計画に基づき、「LCV事業の強靱化」に取り組んでいる。今後も、世界各国でのユーザーの多様なニーズに応える商品を提供し、ブランドと販売の強化を進めるとしている。



先進的なデザインが採用された新型「D-MAX」の運転席

電気小型トラック「eCanter」が 世界各国でCO₂ニュートラル輸送を促進

三菱ふそうトラック・バス(株)(MFTBC)の電気小型トラック「eCanter」は、2017年の発表以降、世界各国でCO₂ニュートラル輸送を推進し、2019年は世界6ヶ国の主要市場で公開している。

MFTBCは2019年から2020年にかけて、台湾、インド、オーストラリア、南アフリカ、ニュージーランド、そしてインドネ

シアのふそうブランドの主要市場を対象に、電気小型トラック「eCanter」を、現地のユーザーやメディアへの試乗を通してその技術を公開してきた。この企画は、複数の国でのモーターショー出展を行うと同時に、各国のユーザー向けに体験試乗を実施し、電気トラックの実用性を紹介することを目的としている。

オーストラリア郵便公社や南アフリカの飲料メーカー South

African Breweries を含むユーザーと実際の車両を用いた市街地での配送業務を経験できる機会を設けるなど、環境に配慮した輸送ソリューションの提案に努めている。MFTBC は、2017 年の初公開以来、170 台以上の「eCanter」を日本、欧州、そして北米のユーザーに納入しており、今後さらなる市場への展開を計画している。

MFTBC のハートムット・シック社長・CEO 兼ダイムラー・トラック・アジア代表は、「都心部での配送業務には、騒音がなく、排出ガスを抑えたトラックが必要ですが、ふそうの『eCanter』は、そのようなニーズにお応えするものです。当車両は、全世界の都市環境で増加する騒音と大気汚染の問題を解決する車両です。都市部での近距離配送を担うお客様の必要条件を満たす航続距離と積載量を提供しています」と述べている。

MFTBC は 2039 年までに国内へ導入する全ての新型車

両を走行時に CO₂を排出しない CO₂ニュートラル化にするビジョンを掲げており、排出ガスが出ない「eCanter」はそのビジョン達成において必要な役割を担っている。同車の国内外での走行データは、製品ラインアップの電動化に向けた開発に活かされている。

小型電気トラック「eCanter」は、運輸・物流や小売企業、さらには行政への導入実績があり、近距離の小口配送からルート配送、宅配便の集配や店舗への商品配送等の配送用トラックとして活用されている。「eCanter」は、車両総重量 7.5 トンクラス、最長で急速充電の場合最大約 1.5 時間、普通充電では最大約 11 時間の充電で、航続距離は約 100 km を確保。電気駆動システムには、モーター（最大出力 135kW、最大トルク 390Nm）と、370V・13.8kWh の高電圧リチウムイオンバッテリーパックを 6 個搭載している。



ニュージーランドのワイヘキ島を走る「eCanter」



台湾で開催された試乗会での「eCanter」



インドネシアのジャカルタで発表された「eCanter」



南アフリカ South African Breweries との試乗会での「eCanter」

話題のニュートラック新製品情報・新情報

製造技術…日産自動車

車体軽量化に向けたCFRP 部品の量産化技術を開発 高精度樹脂含浸シミュレーションにより成形時間短縮

日産自動車(株)は 2020 年 9 月 3 日、炭素繊維強化プラスチック(CFRP)製部品の量産化を実現するため、金型内における炭素繊維への樹脂の含浸度合いを正確にシミュレーションする技術を開発した。この技術を活用することで、同部品の開発期間を約 50%短縮するとともに、C-RTM 工法によって高品質な CFRP 製部品を成形する生産技術を開発し、従来の RTM 工法に対し成形に要する時間を約 80%短縮することを可能とした。

なお、C-RTM (Compression Resin Transfer Molding) 工法は、金型を閉め切らず隙間を作った上で樹脂を注入し炭素繊維に含浸させる工法で、RTM (Resin Transfer Molding) 工法は、金型を閉め切った状態で樹脂を注入し炭素繊維に含浸させる工法である。

CFRP 製部品には軽量で強度と剛性が高いという特長があるため、採用率を高めることにより、車体を軽量化し、車両の燃費性能と走行性能を向上させることができる。一方、CFRP 部品は原料となる炭素繊維が鉄などの他の素材に比べて高コストであることに加え、成形の難しさが量産化に向けた課題となっていた。

高品質な CFRP 製部品を成形するには、炭素繊維を部品の形状に整え、金型にセットした後に樹脂を注入し、繊維に均一に含浸、硬化させることが重要となるが、含浸に最適な部品形状や金型を設計するため、樹脂の流れを確認しながら何度も金型を試作する必要があった。

今回、日産は、金型の試作回数を最少化するため、金型

内への温度センサーの設置や透明な金型の採用などにより、金型内の炭素繊維間の隙間を流れる樹脂の流れを可視化することに成功。可視化した樹脂の流れから、炭素繊維への樹脂の含浸度合いを高精度にシミュレーションする技術を開発した。そして、この高精度なシミュレーション結果に基づき、最適な形状のビード(溝)を炭素繊維の繊維方向に沿って金型内の最適な位置に配置することで、炭素繊維へ樹脂を効率的かつ均一に含浸させ、高品質な CFRP 製部品の成形を可能としている。

日産は今後、同技術を実用化し、車体に CFRP 製部品を積極的に採用することで、車体の軽量化を実現し、燃費や操縦安定性のさらなる向上を目指すとしている。



炭素繊維への樹脂の含浸度合いを正確にシミュレーションする技術で成形時間を短縮

話題のニュートラック新製品情報・新情報

CSR…いすゞ自動車

いすゞグループの CSR 活動実績を掲載した『CSRレポート2020』を公開

いすゞ自動車(株)は、いすゞグループの CSR 活動実績を掲載した『CSRレポート2020』を 2020 年 8 月 31 日に公開した。

CSR レポートは、ステークホルダーにいすゞグループの CSR 活動に対する理解を深めてもらうために発行しているもの。このレポートを通じてステークホルダーとのコミュニケーション

が図られ、いすゞグループの CSR 活動がこれまで以上に社会から期待されるものに成長できればという願いが込められている。

いすゞ『CSRレポート2020』は、開示内容のさらなる充実を図りつつ、いすゞの事業と CSR 活動についてよりわかりや

すくまとめられている。内容は、2部構成となっており、第1部ではいすゞがすべての企業活動を通じてステークホルダーに提供していく価値についてまとめた「価値創造ストーリー」を報告するとともに、重要課題(マテリアリティ)の進捗として、CSRに対するいすゞの考え方や将来成長に向けた課題認識について報告している。また、第2部はCSR活動分野ごとの2019年度の活動実績が報告されている。

いすゞ『CSRレポート2020』は公開情報となっており、Web (URL: <https://www.isuzu.co.jp/company/csr/report/index.html>) で内容を確認することができる。

■「CSRレポート2020」の概要

【トップメッセージ】いすゞのCSR活動についての社長

メッセージを掲載。

【会社概要/いすゞのCSR】会社概要、いすゞのCSR活動方針について掲載。

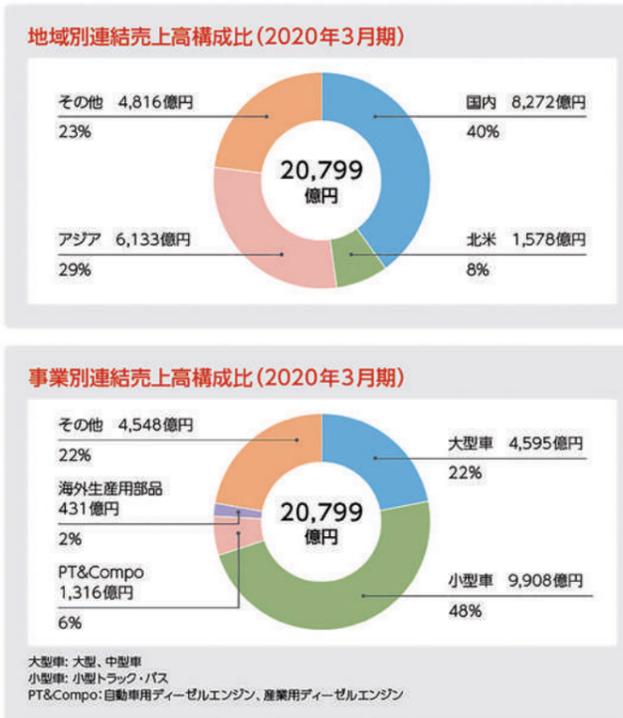
【第1部】「価値創造ストーリー」、重要課題に関する「役員座談会」を掲載。

【第2部】環境、品質、従業員の尊重、サプライチェーン・マネジメント、地域・社会貢献、ガバナンスの6つの活動分野ごとに、取り組み方針、推進体制、2019年度の活動実績等について掲載。

【第三者意見】日本政策投資銀行の竹ヶ原啓介氏の意見を掲載。



いすゞグループのCSR活動実績を掲載した「CSRレポート2020」



CSRレポートには会社の実績も掲載されている



重要課題に対する経営としての思いや将来成長に向けた課題をテーマとした役員3名の対談も掲載されている。左から、池本哲也取締役常務執行役員兼いすゞ自動車販売株式会社代表取締役社長、中田徹副社長執行役員、高橋信一取締役専務執行役員

持続可能な社会の実現に向けて ロジスティクス強調月間2020を実施

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会(JILS)では、創立以来、産業界をはじめ社会全体にロジスティクスの意義を普及・促進するため、毎年10月を「ロジスティクス強調月間」と定め、普及キャンペーンの活動を展開している。

2020年の強調月間では、現代の社会・産業が持続可能な発展を目指すうえで、これからのロジスティクスのあるべき姿や具体的な取り組み指針を示した「ロジスティクスコンセプト2030」に基づき、全国的な規模でロジスティクス推進を産業界に働きかけることにしている。なお、強調月間の催しとして開催する「ロジスティクス全国大会2020」については次のとおりとなる。

■ロジスティクス全国大会2020(オンライン講演)

『持続可能な社会の実現に向けて～今、ロジスティクスが為すべきこと～』をテーマとした全国大会は、JILS初となる「オンライン講演」形式にて、10月6日(火)～29日(木)の期間にわたり開催される。

今年度の全国大会では、「特別講演」として(株)セブン&アイ・ホールディングス グループ商品戦略本部の石橋誠一郎常務執行役員が、コロナ禍においても物流を止めないために取り組んだ同社独自の戦略について講演する。そのほか、2020年1月にJILSより発表された「ロジスティクスコンセプト2030」について、2030年の産業と社会を築くために行うべき事柄を7つの提言として

解説する。また、全国各地における様々なサプライチェーンのプレーヤーから、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響に対応した事例の講演が行われる。その他、今年度のテーマでもある「持続可能な社会を実現するためのロジスティクスのあり方」を議論する場として、「SDGsとロジスティクスセッション」を設けパネルディスカッションを行う。

全国大会の後半では、9月に公表された2020年度ロジスティクス大賞の受賞事例3件の記念講演を行うほか、これからのロジスティクスを支える若手人材に向けた「ロジスティクス入門セッション」と、「ロジスティクスとDX(デジタルトランスフォーメーション)セッション」として、変わりゆく社会構造における今後のロジスティクスのトレンドについての講演を行う。

なお講演は、有料講演と無料講演に分かれており、有料講演の参加料は1日あたり16,500円(税込・1名・JILS会員価格)となる。また、JILSが認定している各資格保持者には、特別料金が適用されるほか、学生は1日あたり1,100円(税込・1名)で参加可能となっている。なお参加定員は、各日500名(先着順)となる。

申込みと問い合わせは、ロジスティクス強調月間2020WEBページ(<http://www.logistics.or.jp/propulsion/enhancement/index.html>)となっている。



JILSの遠藤信博会長(日本電気株取締役会長)(左)とロジスティクス強調月間2020推進委員会の吉本一穂委員長(早稲田大学理工学術院創造理工学部経営システム工学科教授)(右)

